


松下 晴彦 教授 略歴

生年月日 昭和32（1957）年11月24日

【学 歴】

昭和51（1976）年3月	愛知県立豊橋南高等学校卒業	
昭和51（1976）年4月	名古屋大学教育学部入学	
昭和55（1980）年3月	名古屋大学教育学部教育学科卒業	
昭和55（1980）年4月	名古屋大学大学院教育学研究科教育学専攻博士前期課程入学	
昭和57（1982）年3月	名古屋大学大学院教育学研究科教育学専攻博士前期課程修了（教育学修士）	
昭和57（1982）年4月	名古屋大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程進学	
昭和60（1985）年1月	アメリカ合衆国ウィスコンシン大学マディソン校教育学大学院留学（昭和61（1986）年12月まで）	
昭和62（1987）年3月	名古屋大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程単位修得満期退学	
平成5（1993）年1月	アメリカ合衆国ウィスコンシン大学マディソン校研修（フルブライト Junior Researcher Program）（平成5（1993）年8月まで）	
平成8（1996）年2月	名古屋大学大学院教育学研究科より学位（博士（教育学））取得	

【職 歴】

（専任職）

昭和62（1987）年4月	椋山女学園大学人間関係学部講師
平成3（1991）年4月	椋山女学園大学人間関係学部助教授
平成11（1999）年4月	名古屋大学教育学部助教授
平成12（2000）年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科助教授
平成15（2003）年11月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授（現在に至る）
平成27（2015）年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科副研究科長（平成28（2016）年3月まで）
平成30（2018）年4月	名古屋大学教育研究評議会評議員（平成31（2019）年3月まで）
平成30（2018）年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科副研究科長（令和3（2021）年3月まで）
令和3（2021）年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科研究科長（現在に至る）
令和3（2021）年4月	名古屋大学教育学部長（現在に至る）
令和3（2021）年4月	名古屋大学教育研究評議会評議員（現在に至る）

（非常勤職）

昭和55（1980）年4月	愛知県立豊橋南高等学校非常勤講師（英語）（昭和56（1981）年3月まで）
平成元（1989）年4月	金城学院大学家政学部非常勤講師（教科外教育の研究、生活指導の研究）（平成22（2010）年3月まで）
平成7（1995）年10月	名古屋大学教育学部及び大学院教育学研究科非常勤講師（人間形成学講義、人間形成学研究（平成8（1996）年3月まで）
平成9（1997）年4月	名古屋大学教育学部非常勤講師（教育原理）（平成10（1998）年9月まで）
平成9（1997）年7月	静岡大学教育学部非常勤講師（道德教育の研究）（平成12（2000）年12月まで）
平成11（1999）年4月	椋山女学園大学人間関係学部非常勤講師（人間関係論、人間科学）（平成19（2007）

松下晴彦教授 略歴・研究業績

	年3月まで)
平成14 (2002) 年3月	北海道教育大学大学院教育学研究科札幌校非常勤講師 (教育思想)
平成16 (2004) 年4月	愛知学院大学教養部非常勤講師 (教育学) (令和2 (2021) 年3月まで)
平成16 (2004) 年4月	三重大学教育学部非常勤講師 (道德教育論) (平成22 (2010) 年3月まで)
平成17 (2005) 年4月	放送大学非常勤講師 (教育学) (平成18 (2006) 年3月まで)
平成21 (2009) 年4月	椋山女学園大学教育学部非常勤講師 (教育課程論) (平成22 (2010) 年3月まで)
平成21 (2009) 年4月	放送大学非常勤講師 (教育学) (平成21 (2009) 年9月まで)
平成27 (2015) 年10月	鹿児島大学教育学部非常勤講師 (平成28 (2016) 年3月まで)

[学会活動]

平成14 (2002) 年4月	アメリカ教育学会理事 (現在に至る)
平成15 (2003) 年10月	日本デューイ学会紀要編集委員 (平成17 (2005) 年9月まで)
平成16 (2004) 年10月	教育哲学会紀要編集委員 (平成22 (2010) 年9月まで)
平成22 (2010) 年1月	日本教育学会機関誌編集委員会委員 (平成24 (2012) 12月まで)
平成22 (2010) 年10月	日本デューイ学会常任理事 (現在に至る)
平成22 (2010) 年10月	日本デューイ学会事務局長 (平成28 (2016) 年9月まで)
平成22 (2010) 年10月	日本デューイ学会紀要編集委員 (平成24 (2012) 9月まで)
令和元 (2019) 年10月	日本デューイ学会研究奨励賞選考委員長 (令和2 (2020) 年9月まで)
令和3 (2021) 年10月	日本デューイ学会紀要編集委員 (令和5 (2023) 年10月まで)

[所属学会]

日本デューイ学会, アメリカ教育学会, 日本教育学会, 教育哲学会, 教育思想史学会, 中部教育学会, 日本カリキュラム学会, 日本教育方法学会, 日本高等教育学会

[社会的活動等]

平成13 (2001) 年2月	文部省教養教育改善充実特別事業「国際教育フィールドスタディの教育に関する研究」調査委員
平成17 (2005) 年1月	株式会社 ZIP-FM 番組審議会委員長 (平成18 (2006) 年12月まで)
平成22 (2010) 年10月	フルブライト・ジャパン (日米教育委員会) フルブライト奨学金日本人選考委員会委員
平成22 (2010) 年12月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (平成24 (2012) 11月まで)
平成23 (2011) 年10月	フルブライト・ジャパン (日米教育委員会) フルブライト奨学金日本人選考委員会委員
平成25 (2013) 年3月	鳴門教育大学「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」事業講師
平成26 (2014) 年12月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (平成28 (2016) 年11月まで)
平成29 (2017) 年12月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (令和2 (2020) 年11月まで)
平成29 (2017) 年12月	兵庫県立大学環境人間学部教員選考外部審査委員
令和3 (2021) 年12月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (令和4 (2022) 年11月まで)
令和4 (2022) 年5月	愛知県明和高等学校 SSH 運営指導委員会委員
令和4 (2022) 年9月	東海地区大学教育研究会役員 (令和4 (2022) 年12月まで)
令和4 (2022) 年4月	愛知県教員の資質向上に関する協議会委員 (令和5 (2023) 年3月まで)

[賞罰]

平成2 (1990) 年9月	日本デューイ学会より研究奨励賞受賞
----------------	-------------------

研究業績

I. 著書、編著書

1. 『〈表象〉としての言語と知識－人間形成の基礎的地平－』風間書房，平成11（1999）年2月（単著）
2. 『教育原理を組みなおす－変革の時代を超えて』名古屋大学出版会，令和3（2021）年10月（編著）

II. 著書分担執筆

1. 『新版教育哲学原理』田浦武雄編，川島書店，昭和61（1986）年2月（第7章「分析哲学」執筆担当）
2. 『教育哲学の諸問題』堀内守編，名古屋大学出版会，昭和61（1986）年3月（第1部人間性と教育 第5章「言語行為としての知識」執筆担当）
3. 『シリーズ教育の間 第5巻 学力と個性の間』加藤幸次編，ぎょうせい，平成元（1989）年12月（「第2章 自己教育力と個性」執筆担当）
4. 『教育の本質と目標』平光昭久，甲斐進一編，共同出版，平成3（1991）年4月（「第3章 1 伝統主義，2 進歩主義，5 分析哲学」執筆担当）
5. 『アメリカ教育哲学の動向』杉浦宏編，晃洋書房，平成7（1995）年6月（第4章 現代の分析哲学と教育 2 分析哲学の動向と可能性」執筆担当）
6. 『生きる力を育てる新しい授業 第1巻 新しいパラダイムによる授業の創造』加藤幸次編，教育開発研究所，平成9（1997）年7月（「共同化への戦略的思考」執筆担当）
7. 『生きる力を育てる新しい授業 第5巻 多様化への対応する授業』加藤幸次編，教育開発研究所，平成10（1998）年3月（「情報化の進展と『生きる力』を育てる授業」「自己教育力を育てる」執筆担当）
8. 『総合的な学習のカリキュラムをつくる』浅沼茂編，教育開発研究所，平成12（2000）年3月（「総合的な学習に体験はなぜ必要か」執筆担当）
9. 『現代デューイ思想の再評価』杉浦宏編，世界思想社，平成15（2003）年5月（第9章 明日への展望とデューイ 第2節「デューイ思想の再形成」執筆担当）
10. 『総合的な学習ハンドブック』児島邦宏編，ぎょうせい，平成15（2003）年6月（「教師の教育哲学と総合的な学習のねらい」執筆担当）
11. 『習熟度別指導・少人数指導』浅沼茂編，教育開発研究所，平成16（2004）年6月（第1章5「習熟度別指導・少人数指導とデューイの実験学校」執筆担当）
12. 『学力の総合的研究』高浦勝義編，黎明書房，平成17（2005）年3月（第1部 第2章「学校知識の再構成－継続する学力の育成のための知識論」執筆担当）
13. 『新しい教育の原理－変動する時代の人間・社会・文化－』今津孝次郎・馬越徹・早川操編，名古屋大学出版会，平成17（2005）年3月（第I部 第4章「価値の相対化と道徳教育」執筆担当）
14. 『一人ひとりの学びを育む少人数指導のマネジメント』浅沼茂編，教育開発研究所，平成18（2006）年4月（第1章「少人数指導の歴史と現在：一人ひとりの学びを育む少人数指導の勧め」執筆担当）
15. 『活用型学習をどう進めるか』浅沼茂編，教育開発研究所，平成20（2008）年6月（5. 「論理的思考力と仮説的推論」執筆担当）
16. 『探究型の学習をどう進めるか』浅沼茂編，教育開発研究所，平成20（2008）年8月（5. 「論理的思考力を育てる探究型学習」執筆担当）
17. 『教育と学びの原理－変動する社会と向き合うために－』早川操・伊藤彰浩編，名古屋大学出版会，平成27（2015）年（「第13章 道徳教育の課題と可能性」執筆担当）
18. 『プラグマティズムを学ぶ人のために』加賀裕郎，高頭直樹，新茂之編，社会思想社，平成29（2017）年（「意味論－「未来の帰結」としての意味の探究」執筆担当）
19. 『現代カリキュラム研究の動向と展望』日本カリキュラム学会編，教育出版，令和元（2019）年（第III部 カリキュラム研究の方法 「第1章 カリキュラムの哲学的研究」執筆担当）
20. 『民主主義と教育の再創造－デューイ研究の未来へ』日本デューイ学会編，勁草書房，令和2（2020）年（第

11章 『民主主義と教育』における自然化された論理学と形而上学を執筆担当)

Ⅲ. 論文

1. 「教育の人間化に対応する教育過程論の研究」『名古屋大学教育学部紀要』第28巻, 昭和57 (1982) 年3月 (田浦武雄と共著, 「教育的美学論」執筆担当)
2. 「教育における『知識』概念の研究—『知ること』の哲学的分析を中心として—」『名古屋大学教育学部紀要』第29巻, 昭和58 (1983) 年3月
3. 「教育的認識における『説明』について」『名古屋大学教育学部紀要』第30巻, 昭和59 (1984) 年3月
4. 「科学的探究における『説明 (explanation)』概念について—C.G. ヘンペルト I. シェフラーの説明概念の分析を手掛かりとして—」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第25号, 昭和59 (1984) 年6月
5. 「現代における価値教育論の比較研究(その三)」『名古屋大学教育学部紀要』第31巻, 昭和60 (1985) 年3月 (田浦武雄との共著, VI 「道徳的発達の立場」, VIII 「社会的価値のためのロール・プレイング」執筆担当)
6. 「言語の分析とその理解について—教育の言語論(その1)—」『名古屋大学教育学部紀要』第31巻, 昭和60 (1985) 年3月
7. 「真理の意味に関する一考察—真理対応説を中心にして—」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第26号, 昭和60 (1985) 年6月
8. 「概念(concept)の用法についての一考察」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第29号, 昭和63 (1988) 年6月
9. 「コールバーグ道徳理論哲学的基盤—メタ理論(科学哲学的批判)—」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第30号, 平成元 (1989) 年6月
10. 「アメリカにおける歴史教育と道徳教育の統合—価値観形成のための教材例—」『比較教育学研究』(日本比較教育学会) No.15, 平成元 (1989) 年6月
11. 「G. ライル, 『心の概念』における〈カテゴリー〉について」『椋山女学園大学研究論集』第21号, 平成2 (1990) 年2月
12. 「現代英米哲学における認識的相対主義と客観主義」『椋山女学園大学研究論集』第22号, 平成3 (1991) 年2月
13. 「Knowing and the Known におけるデューイとベントリーの言語観」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第33号, 平成4 (1992) 年6月
14. 「D. デイヴィッドソンの解釈理論」『椋山女学園大学研究論集』第25号, 平成6 (1994) 年2月
15. 「教育学研究における〈言語哲学〉の限界と可能性」『椋山女学園大学研究論集』第26号, 平成7 (1995) 年3月
16. 「デューイの言語哲学」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第36号, 平成7 (1995) 年6月
17. 「教育における〈学習〉と〈探究〉のジレンマ(1)」『椋山女学園大学研究論集』第27号, 平成8 (1996) 年3月
18. 「教育における〈学習〉と〈探究〉のジレンマ(2)」『椋山女学園大学研究論集』第28号, 平成9 (1997) 年3月
19. 「多文化教育における〈差異〉と〈承認〉」『椋山女学園大学研究論集』第29号, 平成10 (1998) 年3月
20. 「〈表象〉としての教科書の淵源—知の視覚化とその周辺—」『椋山女学園大学研究論集』第30号, 平成11 (1999) 年3月
21. 「学校論を検討するための枠組みの問題について」『教育哲学研究』(教育哲学会) 第81号, 平成12 (2000) 年5月
22. 「デューイの論理学における『判断』と『命題』」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第41号, 平成12 (2000) 年6月
23. 「アメリカの公立リサーチ・ユニヴァーシティにおける大学院教育の歴史的展開と課題—ウィスコンシン大学の事例を中心に—」平成12 (2000) 年度大学院重点化特別経費報告書, 「大学院教育プログラムの多様化とその課題—大学院高度化に伴う多様化した大学院教育プログラム開発に関する研究報告書—」平成13 (2001) 年

3月

24. 「デューイの自然主義的形而上学」『日本デューイ学会紀要』（日本デューイ学会）第42号，平成13（2001）年6月
25. 「デューイの論理学における形式概念について」『日本デューイ学会紀要』（日本デューイ学会）第43号，平成14（2002）年6月
26. 「教育的関係の神秘性とリアリティ」『近代教育フォーラム』（教育思想史学会）第11号，平成14（2002）年9月
27. 「英米の教育学研究における社会構成主義とその認識論的諸問題」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第49巻 第1号，平成14（2002）年9月
28. 「21世紀型の学校教育—アメリカのチャータースクールの現状と課題」『アメリカ教育学会紀要』（アメリカ教育学会）第16号，平成17（2005）年9月
29. 「米国の教育哲学研究の動向にみる認識論的多様性と客観性の諸問題」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第53巻 第2号，平成19（2007）年3月
30. “The Reconstruction of School Knowledge” Collected Works on the First International Forum on Teaching Reform (Institute of Curriculum and Instruction, East China Normal University) (2007/05)
31. “Strategy for Individual Instruction and Learning” Collected Works on the First International Forum on Teaching Reform (Institute of Curriculum and Instruction, East China Normal University) (2007/05)
32. “Philosophical Perspective for Teachers and the Aims of Integrated Learning” Collected Works on the First International Forum on Teaching Reform (Institute of Curriculum and Instruction, East China Normal University) (2007/05)
33. 「デューイ論理学における『自然化されたヘーゲル』」『日本デューイ学会紀要』（日本デューイ学会）第48号，平成19（2007）年10月
34. “On Some Aspects of Learning Experiences; Acquisition Model, Participation Model and Inquiry Model,” Collected Papers on The International Symposium on Curriculum Reform and Social Progress (Institute of Curriculum and Instruction, East China Normal University) (2007/10)
35. 「19世紀のミシガン大学とジョン・デューイ」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第54巻 第2号，平成20（2008）年5月
36. 「ジョン・デューイの中等教育観」『中等教育研究センター紀要』（名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属中等教育研究センター）第8号，平成20（2008）年3月
37. 「現代の高校生における友人関係の捉え方」『中等教育研究センター紀要』（名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属中等教育研究センター）第8号，平成20（2008）年3月（岩瀬真寿美，奥田彩海との共著）
38. 「これからの教育哲学を考える」『教育哲学研究』（教育哲学会）第97号，平成20（2008）年（丸山恭司との共著）
39. 「ジョン・デューイの中等教育のカリキュラム原理」『アメリカ教育学会紀要』（アメリカ教育学会）第19号，平成20（2008）年11月
40. 「『統一性』の希求と『方向性なき成長』不安—ヘーゲルの残滓と進化論的自然主義—」『日本デューイ学会紀要』（日本デューイ学会）第50号，平成21（2009）年10月
41. 「デューイ教育学における『カリキュラムの再構築』—方法と題材の統一—」『中等教育研究センター紀要』（名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属中等教育研究センター）第10号，平成22（2010）年3月
42. 「台湾における小・中一貫の英語教育の現状と課題」『中等教育研究センター紀要』（名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属中等教育研究センター）第10号，平成22（2010）年3月
43. 「研究大学におけるEd.D.プログラムの意義—名古屋大学『教育マネジメント』の事例—」『名古屋大学高等教育研究』（名古屋大学高等教育研究センター）第10号，平成22（2010）年4月
44. 「デューイとの対話—デューイ的思索の過去・現在・未来—」『教育哲学研究』（教育哲学会）第101号，平成22（2010）年6月（早川操，生澤繁樹と共著）
45. 「初期デューイ思想における個と普遍」『近代教育フォーラム』（教育思想史学会）第19号，平成22（2010）年9月

46. 「デューイ哲学における『永遠のヘーゲルの残滓』—初期デューイ思想とヘーゲル主義—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第57巻 第2号, 平成23(2011)年3月
47. 「初期デューイ哲学における倫理的観念論と機能主義的論理学」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第58巻 第1号, 平成23(2011)年10月
48. 「パーリントン哲学とジョン・デューイ」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第59巻 第1号, 平成24(2012)年10月
49. 「19世紀アメリカ教育思想黎明期におけるヘーゲル主義—セントルイス哲学協会の運動を中心に—」『アメリカ教育学会紀要』(アメリカ教育学会)第23号, 平成24(2012)年10月
50. 「『生活様式としての民主主義』の倫理とその可能性」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第60巻 第1号, 平成25(2013)年9月
51. 「デューイ哲学における自然主義化されたヘーゲル」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会)第54号, 平成25(2013)年10月
52. 「デューイの道具主義的論理学」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第61巻 第1号, 平成26(2014)年10月
53. 「1903年から1915年のデューイによるヘーゲル解釈とその批判」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第61巻 第2号, 平成27(2015)年3月
54. 「グローバル化と新自由主義的統治の時代における批判的教育学の可能性」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第62巻 第1号, 平成27(2015)年10月
55. 「現代アメリカ教育思潮の変遷と展望—政治哲学・文化政治学・教育政策からみるアメリカ教育の動向」『アメリカ教育学会紀要』(アメリカ教育学会)第26号, 平成27(2015)年11月
56. 「ジョン・デューイの哲学的方法とヘーゲルの痕跡」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第63巻 第1号, 平成28(2016)年10月
57. 「進歩主義時代のユニヴァーシティとカレッジ」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第64巻 第1号, 平成29(2017)年10月
58. 「初期デューイ論理思想とヘーゲル」『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会)第58号, 平成29(2017)年10月
59. 「20世紀初頭のアメリカにおける研究促進体制の形成とその役割」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第65巻 第1号, 平成30(2018)年10月
60. 「日本における翻訳実践の淵源をめぐる系譜学的考察」『教育学研究』(日本教育学会)第86巻第2号, 令和元(2019)年6月
61. 「デューイ『ヘーゲル講義』にみる自然化された精神哲学」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第67巻 第2号, 令和3(2021)年3月
62. “Dewey’s Conception of Democracy as a Mode of Associated Living”『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第68巻 第2号, 令和4(2022)年3月

IV. その他(翻訳, 書評, 図書紹介, 事典項目, エッセイ, 報告書など)

(翻訳)

1. M.W. アップル著『教育と権力』日本エディタースクール出版部, 平成4(1992)年3月(共訳)
2. M.W. アップル編『批判的教育学事典』明石書店, 平成29(2017)年(共訳)

(書評)

1. 「書評 松下良平著『知ることの力』勁草書房」, 『近代教育フォーラム』(教育思想史学会)第22号, 平成25(2013)年10月
2. 「書評 小笠原喜康著『Peirce 記号論による Visual 記号の概念再構成とその教育的意義』紫峰図書, 平成15(2003)年」, 『教育学研究』(日本教育学会)第72巻第1号, 平成17(2005)年3月
3. 「書評 加賀裕郎著『デューイ自然主義の生成と構造』晃洋書房, 平成21(2009)年」, 『教育哲学研究』(教育哲学会)第102号, 平成22(2010)年11月

（図書紹介）

1. 「図書紹介 市村尚久, 早川操, 松浦良充, 広石英記編『経験の意味世界をひらく—教育にとって経験とは何か』東信堂, 平成15(2003)年』『教育哲学研究』(教育哲学会) 平成16(2004)年5月
2. 「図書紹介 藤井千春著『ジョン・デューイ経験主義哲学における思考論—知性的な思考の構造的解明—』『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第52号, 平成23(2011)年
3. 「図書紹介 山上裕子著『デューイの〈教材〉開発論とその思想』風間書房, 平成22(2010)年, 『教育哲学研究』(教育哲学会) 第103号, 平成23(2011)年
4. 「図書紹介 藤本夕衣著『古典を失った大学—近代性の危機と教養の行方—』NTT出版『近代教育フォーラム』(教育思想史学会) 第22号, 平成25(2013)年10月
5. 「図書紹介 森田伸子編著『言語と教育をめぐる思想史』勁草書房, 平成25(2013)年』『教育哲学研究』(教育哲学会) 第111号, 平成27(2015)年5月
6. 「図書紹介 苫野一徳著『学問としての教育学』日本評論社, 令和4(2022)年, 『日本デューイ学会紀要』(日本デューイ学会) 第64号, 令和4(2022)年

（事典項目）

1. 『現代学校教育大事典』奥田真丈, 河野重男他監修, ぎょうせい, 平成5(1993)年8月(「論理学」「論理実証主義」「論理的思考」を執筆担当)
2. 『現代カリキュラム事典』日本カリキュラム学会編, ぎょうせい, 平成13(2001)年2月(事項「教育哲学とカリキュラム目標」「教育目的の源泉」執筆担当)
3. 『比較教育学事典』日本比較教育学会編, 東信堂, 平成24(2012)年(事項「カルチュラル・スタディーズ」執筆担当)
4. 『現代アメリカ教育ハンドブック』アメリカ教育学会編, 東信堂, 平成22(2010)年10月(事項「ジョン・デューイ(John Dewey, 1959-1952)」執筆担当)
5. 『教育思想事典(増補改訂版)』教育思想史学会編, 勁草書房, 平成29(2017)年9月(事項「社会構築主義(Social Constructionism)」を執筆担当)
6. 『現代アメリカ教育ハンドブック(第2版)』アメリカ教育学会編, 東信堂, 令和3(2021)年10月(事項「ジョン・デューイ(John Dewey, 1959-1952)」執筆担当)

（テキスト）

1. 『よくわかる高等教育論』橋本鉦市, 阿曾沼明裕編, ミネルヴァ書房, 令和3(2021)年4月(XIII 大学と社会・経済 「7 大学とエビステマー」執筆担当)

（エッセイ・報告書など）

1. 「〈都市空間のためいき〉と子どもたち」『個性を育てる』(全国個性化教育研究連盟) 第4号, 平成2(1990)年6月
2. 「階級・階層(意識)の形成と〈境界侵犯〉」『相山女学園大学学園研究報告書』(人間関係とイデオロギー研究会), 平成6(1994)年3月
3. 「堀内守教授退官記念誌「時の変幻」1996」(堀内先生御退官記念の会), 平成8(1996)年3月(「仕組まれたクラインの壺」執筆担当)
4. 「表象としての〈他者〉とアイデンティティの形成・炸裂—ポストコロナル言説からの示唆—」平成7～8年度科学研究費補助金(基盤研究(A)研究成果報告書)「グローバル化時代における学校カリキュラムの再編に向けてのデータベース開発」(課題番号:07301030), 平成10(1998)年3月
5. 「学習空間の再造と学習方式的変革—与名古屋大学教育发展研究科松下晴彦教授の対話—」(翻訳:方明生)『現代教学』上海教育报刊社, 平成19(2007)年10月
6. 「2009年度学びの杜・学術コースの企画と実施に関する報告」『2009年度学びの杜・学術コース・文学探究講座, 講義の概要』『中等教育研究センター紀要』(名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属中等教育研究センター) 第10号, 平成22(2010)年3月
7. 「フェルメール『真珠の耳飾りの少女』とオールド・オーダー・アーミッシュ」『教育哲学研究』(教育哲学会), 平成25(2013)年5月

(海外招待講演など)

1. "Space Design for Learning Activity in Primary and Second School in Japan," The International Conference on Integrated Curriculum of Practical Activity in Primary School, Shanghai, China, December, 2002
2. "Some Strategies for Individualized Learning in an information age," The First International Forum on Teaching Reform, Shanghai, China, May, 2007
3. "On Some Aspects of Learning Experiences; Semi-Lattice, Tacit Learning, Qualitative Thought," The ICI Famous Professors' Forums, Shanghai, China, May, 2007
4. "On Some Aspects of Learning Experiences; Acquisition Model, Participation Model and Inquiry Model," International Symposium on Curriculum Reform and Social Progress, Hangzhou, China, October, 2007
5. "Educational Divide in Japan; Polarization in Academic Achievement, Economic and Social Disparities," International Conference on Balanced Development of Education and Society's Progress, Ningbo, China, October, 2007
6. "Democracy and Education in the Era of Social Transformation through Technological Innovation: What is Education for ?" International Conference on Current Issues in Education and Psychology, School of Arts and Sciences, National University of Mongolia, September 28, 2021
7. "Problems for Young People in Japan," International Scientific and Practical Conference on Preparing Young People for Family Life, The Institute for Research of the Youth Problems and Training Prospective Personnel, Republic of Uzbekistan, December 20, 2021